

令3 高等学校書道（5枚のうち1）

（解答はすべて、解答题紙に記入すること）

一 次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

現在最も古いとされている漢字は殷（商）時代の（①）である。（①）とは亀の甲や獣の骨などに刻された文字で、鋭利な小刀で刻むことから「契文」ともいい、また、内容が占卜に関するものであることから「卜辞」ともいう。（①）と同じ頃の文字資料にはほかに、青銅器に鑄込まれた銘文があり、（②）とよんでいる。中国で青銅器に文字を鑄込んだ例は、現在のところ殷時代末期のもの最古である。その頃の（②）はマークのようなものがほとんどで、これを（③）とよんでいる。その後、（②）は西周時代に入って長文になり、春秋・戦国時代には字形に地域差が現れるなど多様化した。（②）のほとんどは、融解した青銅を鑄型に流し込む鑄造によって生み出されるため、（①）に比べて一般に線は肉太で曲線が多いのが特徴である。

前漢時代になると（④）は次第に準公用体として認められるようになり、後期には波磔を強調した八分が既に完成していたことが近年の出土資料から窺える。また、後漢時代、当時防衛の最前線であった辺境の地から出土した肉筆がある。二〇〇四年、湖南省長沙市東牌楼で後漢末に記された〈東牌楼漢簡〉（二六八〜一八九九年）が出土した。その中にI初期の楷書とみなせるものが含まれており、楷書の成立を考える上で重要な発見である。

南朝では行・草書に新しい傾向が現れる。その中心となったのが（⑤）の王羲之であった。その真跡は現存しないが、「蘭亭序」「喪乱帖」「孔侍中帖」などの臨模本や「集王聖教序」などによって書風が伝えられる。また、その子である（⑥）も能書家で、二人を合わせて二王という。

唐代の太宗皇帝は王朝三百年の政治的基盤を確立し、文化政策にも力を注いだ。自身でも書をよくし、II王羲之の書を大いに顕彰するとともに「III初唐の三大家」を重用した。北宋時代に入ると、伝統書法を踏まえつつも、自由で個性の感じられる表現が生まれた。この時代を代表するのが「IV北宋の三大家」である。また、宋代には活字印刷が発明された。これは（⑦）と拓本の技法が結合した新しい技術といえる。

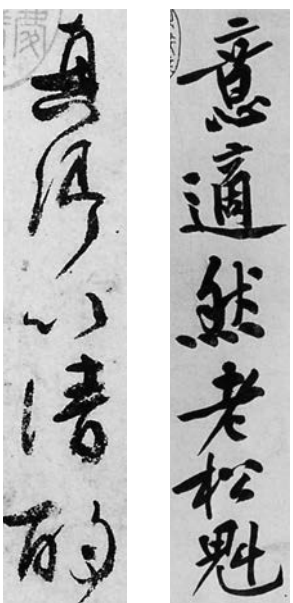
問一 文中の空欄①〜⑦に当てはまる適切な人物名・言葉それぞれ漢字で書きなさい。ただし、⑤については時代名で書きなさい。

問二 傍線部I「初期の楷書」の芽生えとして見られるようになった筆法で、三度筆勢が変わるものを漢字三文字で書きなさい。

問三 傍線部II「王羲之の書」を規範として論じており、草書の模範とされる作品「書譜」を書いた作者を漢字で書きなさい。

問四 傍線部III「初唐の三大家」をそれぞれ漢字で書きなさい。

問五 傍線部IV「北宋の三大家」の作品として当てはまるものに○を、それ以外には×を入れ、それぞれの図版A〜Dの作品名と作者（伝承筆者名）を漢字で書きなさい。



図版A

図版C



図版B



図版D

二 次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

中国の戦国時代には、既に印が使われていた。この時代の印を（①）という。紙が普及する以前は、印は主に（②）を封じる粘土の上に押され、開封を禁じるとともに文書等の発信者を表すものとして用いられた。これを（③）とよぶ。官吏任命の際、官職名を記した印を与える官印の制度は秦の始皇帝により確立された。漢代には他民族にも印を与え、權威を誇示するようになった。（③）用に作られたI金印（漢委奴國王）はその代表的な例である。印の用法は、紙の普及とともに朱による押印に変わっていった。

隋代から唐代にかけて大型の朱文印は、日本の（④）印にも影響を与えた。明・清代には篆書などの文字研究が盛んに行われ、それとともに（⑤）が流行し、名手たちがその技を競い合い、印は芸術的な方向に新たな展開を見せた。



図版

（釈文）

吾（⑥）（⑦）粗足作佳觀吾
為逸民之（⑧）久矣足下何以
方復及此似（⑨）中語耶
無（⑩）言面為歎（⑪）何（⑫）悉

令3 高等学校書道（5枚のうち2）

（解答はすべて、解答题紙に記入すること）

- 問一 文中の空欄①～⑤に当てはまる適切な言葉をそれぞれ漢字で書きなさい。
- 問二 **傍線部Ⅰ**「金印（漢委奴國王）」が日本に渡ったのは、日本の何時代にあたるか漢字で書きなさい。
- 問三 明・清時代において画期的展開が見られた⑤の他に、当時、文人として必須の教養に挙げられたものを3つ、次の語群から選び記号で書きなさい。

【語群】	ア 舞	イ 画	ウ 賞鑑	エ 書	オ 政治	カ 詩	キ 茶
------	-----	-----	------	-----	------	-----	-----

- 問四 印材の側面に「いつ、誰が、どこで、何のために」などを刻すことを何というか漢字で書きなさい。
- 問五 **図版**について次の問いに答えなさい。
- (1) **図版**は尺牘の一部分である。この作品名を漢字で書きなさい。また、日本における「尺牘」の説明を簡潔に述べなさい。
- (2) **図版**の釈文の中の空欄⑥～⑫に当てはまる漢字一字を楷書で書きなさい。

三 次の日本の書に関して書かれた文章を読んであとの問いに答えなさい。

飛鳥時代 ◆漢字や仏教の伝来による書の発展

中国より多くの仏典が伝来し、(1) が国家的な事業となった。正倉院文書中に見られる(1) 記録にもあり、聖徳太子の書写と伝えられる**図版A**は紙に墨で書かれた日本最古の書である。また、石に刻された**図版B**は現存する日本最古の石碑として名高い。この書には、中国の(2) 時代の影響が見られ、堅く力強い書がうかがえる。

奈良時代 ◆唐の書風の流行 — 天平文化

遣唐使や留学僧らによって唐の文化が伝えられた。当時、唐で隆盛を極めていた王羲之の書は、日本でも尊重された。(3) が書いた「雑集」と光明皇后の**図版C**は、ともに王羲之の影響を受けた作品である。

平安時代 ◆日本的な書の芽生え

唐の文化の影響を残しながらも、日本的な書が生まれた。特に、空海は優れた書作品や書論を執筆した。他にも、**図版D**を書いた(4)、**図版E**を書いたと伝えられる(5)の「三筆」とよばれる人たちが活躍した。**図版F**は、空海が(6)に宛てた書簡である風信帖のうちの第二通目である。

◆和様の書の確立 — 国風文化

遣唐使が停止になると、日本独自の文化が花開き、流麗な和様の書が生まれた。

図版Gを書いた(7)と**図版H**を書いた(8)とI藤原佐理の三名は(9)とよばれ、和様の書の確立に貢献し、独自の書の世界を展開した。中でも(7)の書は、(10)流とよばれ、宮廷文化を代表する作品である。

鎌倉・南北朝・室町時代 ◆書流の多様な展開

歌人藤原定家を始祖とする定家様、天皇の書である(11)様が生まれた。**図版I**『結夏衆僧名』を書いた(12)は、独自の書を確立し、青蓮院流を開いた。この書流は、後世の(13)と名を変え、江戸時代まで長く受け継がれることになる。

安土桃山・江戸時代 ◆寛永の三筆

戦乱の時代が終わり、書の世界ではII寛永の三筆が活躍した。

屏風への大字仮名の揮毫や大胆な下絵による作品など、書を装飾とともに見せる発想が生み出されていった。

江戸時代は、(13)が公用書体とされる一方、儒学や漢字が尊ばれ(14)の書が流行した。江戸時代半ばには明の書法が伝来し、個性的な書が残っている。江戸時代後期には、III幕末の三筆と称された三人が活躍した。

問一 空欄①～⑭に当てはまる適切な人物名・適切な言葉を漢字で書きなさい。

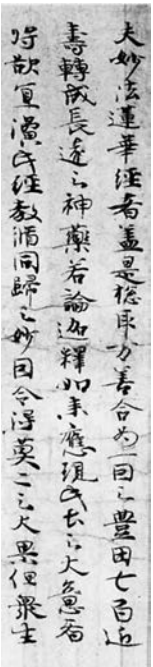
問二 **図版A**～**H**の作品名を漢字で書きなさい。

問三 **傍線部Ⅰ**「藤原佐理」は和様の書の確立に貢献したが、職務上の失敗が多く自分の正当性を主張した詫び状をたくさん残している。

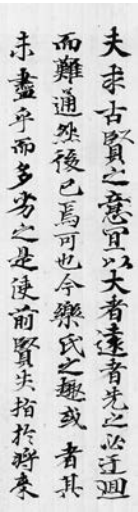
図版J・**K**は、佐理の書状である。作品名を漢字で書きなさい。

問四 **傍線部Ⅱ**「寛永の三筆」・III「幕末の三筆」と呼ばれる人物は誰か。最も適切なものを次の語群から選び、記号で書きなさい。

【語群】	ア 市川米庵	イ 本阿弥光悦	ウ 一休宗純	エ 松花堂昭乗	オ 巻菱湖
カ 池大雅	キ 貫名菘翁	ク 白隠慧鶴	ケ 比田井天来	コ 近衛信尹	



図版 A



図版 C



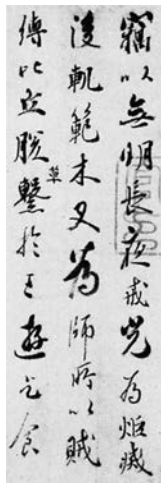
図版 B



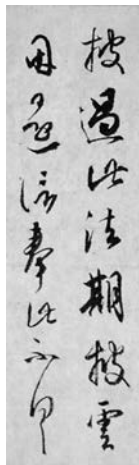
図版 D

令3 高等学校書道（5枚のうち3）

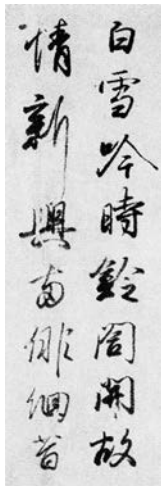
（解答はすべて、解答用紙に記入すること）



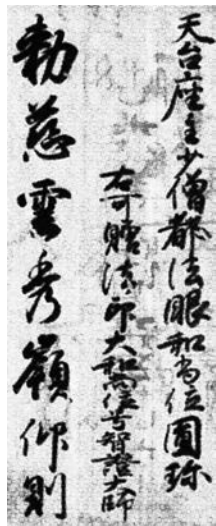
図版 E



図版 F



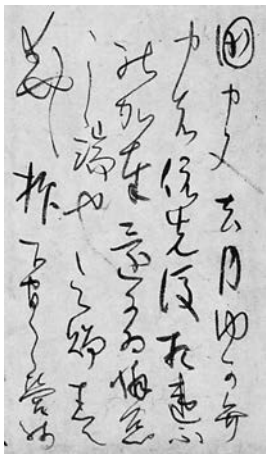
図版 G



図版 H



図版 I



図版 J

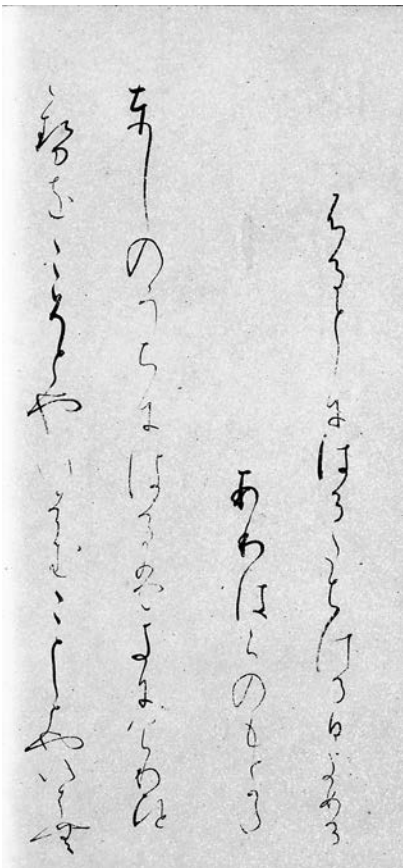


図版 K

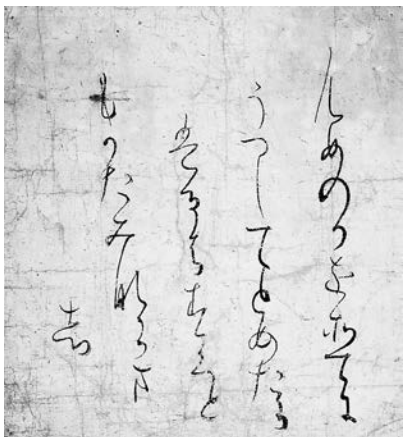
四 次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

平安時代は、奈良時代から摂取してきた中国文化をもとに、日本独自の文化が開花・発展した、創造的な営みにあふれる時代であった。

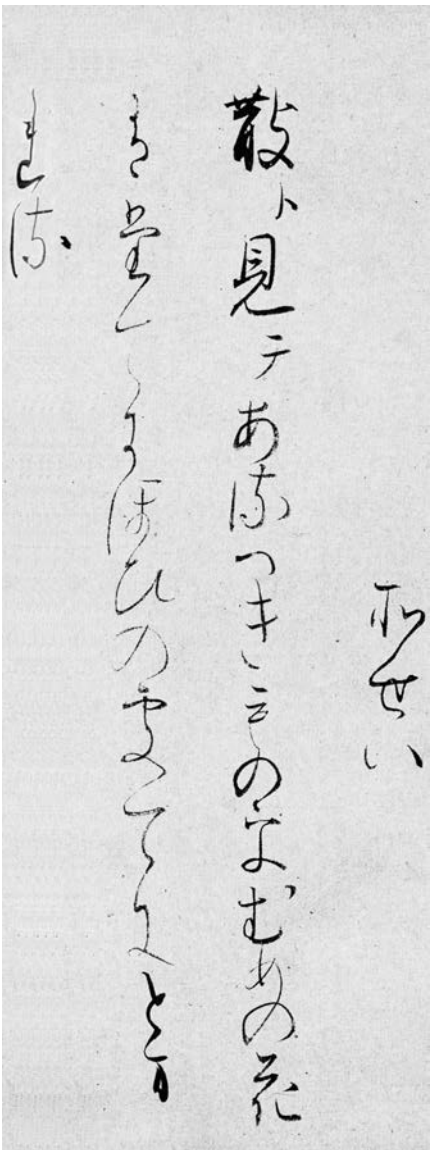
現在、我々が使用している仮名は、平安時代の人々が、漢字をもとに創造した文字である。(1) 世紀になると、漢字は和様化が進み、仮名も、(1) 世紀中頃には、図版 A のような仮名の典型とよばれる名品が誕生した。そして、さらなる造形美の探求により、一紙の中の行の構成、紙面の余白に変化をもたせた、さまざまな種類の (2) が展開されている図版 B や、(3) を駆使した重厚でゆったりとした運筆と流動的で息の長い (4)、(4)、自然な墨の (5) や効果的な墨継ぎがみられる図版 C などが誕生した。



図版 A



図版 B



図版 C

図版 C (読み)

そせい

- 散 (6) 見テあ (7) べき (8) の (9) むめの花 (10) (11) て (12) ほひの (13) で (12) と (14) / (15) (7)

令3 高等学校書道（5枚のうち4）

（解答はすべて、解答题紙に記入すること）

問一 空欄①～⑤に当てはまる適切な言葉を次の語群から選び、それぞれ記号で書きなさい。

【語群】	ア 九	イ 十	ウ 十一	エ 万葉仮名	オ 草仮名	カ 返し書き	キ 散らし書き	ク 行書き
	ケ 側筆	コ 順筆	サ 直筆	シ 直線	ス 連綿線	セ 方勢	ソ 円勢	タ 潤濁

問二 図版A・図版B・図版Cの作品名をそれぞれ漢字で書きなさい。また、それぞれの作品が、断簡、分割される前の装丁を漢字で書きなさい。

【語群】	ア 麻紙	イ 楮紙	ウ 染紙	エ 雲紙	オ 唐紙
------	------	------	------	------	------

問四 図版Aには、和歌のほかに書かれている事柄が二つある。それぞれ漢字で書きなさい。

問五 図版Bの三行目を濁音なしの平仮名で書きなさい。

問六 平安時代の名筆「三色紙」と呼ばれる古筆の中で、図版Cと同じ筆者と伝えられている作品名を漢字で書きなさい。

問七 図版C（読み）について、空欄⑥～⑮に当てはまる適切な平仮名、片仮名とその字源となる漢字を解答欄の例になり、それぞれ書きなさい。「／」は改行を示す。

五 次の各問いに答えなさい。

問一 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）書道Iの内容を踏まえ、次の問いに答えなさい。

(1) 「1 目標」において、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるためには、何に基づくべきと示しているか。適当な言葉を四文字で書きなさい。

(2) 「2 内容、A表現」において示している内容と合致するものを、次のア～ウの中から一つ選び記号で書きなさい。

- ア 漢字仮名交じりの書においては、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりを理解する必要がある。
- イ 漢字の書においては、能書の意図に即した用筆・運筆について理解し、工夫する必要がある。
- ウ 仮名の書においては、変体仮名や漢字を生かし、駆使する表現についての技能を磨く必要がある。

(3) 「2 内容、「共通事項」において、A表現、B鑑賞の指導を通して、「書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解すること。」とあるが、

- ① 漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書の三分野に共通する書を構成する要素とは具体的に何か。漢字で三つ書きなさい。
- ② ①を効果的に働かせることにより多様な表現性が生まれるが、それらが重層的・複合的に合わさりもたらされるものを漢字二文字で書きなさい。

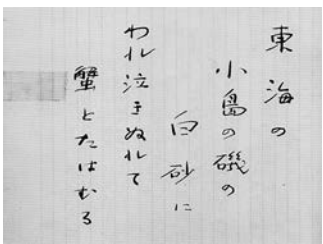
問二 書論(1)～(4)の内容に合致する作品名として正しいものを、あとの語群から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 五乖同に萃まれば、思過まり手蒙く、五合交ごも臻れば、神融け筆暢ぶ。
- (2) 書を学ぶには、要す須らく胸中に道義有るべし。
- (3) 良工は先ず其の刀を利くし、能書は必ず好筆を用う。
- (4) 書道は只だ巧妙の二字に在り。拙ならば則ち直率にして化境無し。

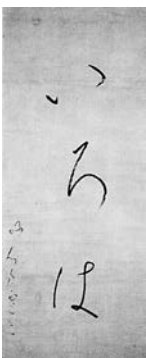
【語群】	ア 山谷題跋	イ 画禅室随筆	ウ 書譜	エ 遍照發揮性靈集	オ 入木抄
------	--------	---------	------	-----------	-------

問三 今年（令和2年）の十干十二支を漢字で書きなさい。

問四 次の図版A～Cについて、①それぞれの作者名を漢字で書きなさい。②これらの図版を題材とした、「他教科との関連性」を踏まえた授業展開について、具体的な指導の視点を簡潔にまとめて書きなさい。



図版A



図版B



図版C



図版D

問五 次の図版Dは、身の回りに見られる印影である。篆書体を楷書体に直して書きなさい。

令3 高等学校書道 模範解答

総計
200

問五				問四	問三	問二	問一	
D	C	B	A	歐陽詢	孫過庭	三過折	⑤	①
○	×	×	○				東晋	甲骨文
<small>作品名</small>	<small>作品名</small>	<small>作品名</small>	<small>作品名</small>				王献之	金文
蜀素帖	祭姪文稿	自叙帖	松風閣詩卷	虞世南			⑥	②
<small>作者名</small>	<small>作者名</small>	<small>作者名</small>	<small>作者名</small>				王献之	金文
<small>作者名</small>	<small>作者名</small>	<small>作者名</small>	<small>作者名</small>				王献之	金文
米芾	顔真卿	(伝)懐素	黄庭堅	褚遂良			⑦	③
<small>作者名</small>	<small>作者名</small>	<small>作者名</small>	<small>作者名</small>				印章	図象銘
<small>作者名</small>	<small>作者名</small>	<small>作者名</small>	<small>作者名</small>				印章	図象銘
封泥	④	④	大和古(印)	⑤	④	⑤	篆刻	

問五	問四	問三	問二	問一
②	⑥	イ	弥生(時代)	①
<small>(1)</small>	<small>作品名</small>	側款	工	古シ(金偏に木)
⑦	⑧	カ	力	②
前	⑨	懐	⑩	③
⑩	⑪	夢	縁	④
東	⑫	⑫	書	⑤
<small>十七帖</small>	⑬	⑬	能	
説明	手紙のことをいい、なかでも漢文で書かれたものを指す。			

問四	問三	問二		問一			
寛永の三筆	J	G	D	A	⑪	⑥	①
イ	国申文帖	白氏詩卷	伊都内親王願文	法華義疏	宸翰	最澄	写経
エ	K	H	E	B	⑫	⑦	②
幕末の三筆	離洛帖	智証大師諡号勅書	光定戒牒	宇治橋断碑	尊円親王	藤原行成	北魏
ア	⑭	⑭	⑭	⑭	御家流	小野道風	聖武天皇
オ	⑮	⑮	F	C	唐様	三跡	橘逸勢
キ	⑯	⑯	⑯	⑯	唐様	世尊寺	嵯峨天皇
	⑰	⑰	⑰	⑰	唐様	世尊寺	嵯峨天皇

問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
⑪	例			A	装丁 作品名	①
た	そ	升色紙	はるはすくと	A	A	ウ
堂	所			卷子(本)・手巻・巻物	高野切第一種	
⑫	⑥			ア	ア	②
に	ト				作者(名)	キ
ル	止			B	B	③
⑬	⑦			B	B	④
そ	る			才	才	ケ
處	流				粘葉装	寸松庵色紙
⑭	⑧					④
ま	も					ス
⑮	⑨			C	C	⑤
れ	を				綴葉装・列葉装	関戸本古今(和歌)集
⑯	⑩					ウ
連	乎					タ
	⑩					有

問五	問四	問三	問二	問一
總裁之印	②	①	(1)	(3)
	国語における「短歌」や地歴公民における日本の歴史と文化の学びを踏まえて授業展開する必要がある。			
	A	庚子	ウ	①
	B		線質	書の伝統
			②	
			ア	(2)
	良寛		字形	ア
			③	
			エ	
	C		④	
			イ	構成
	北大路魯山人		⑤	②
				風趣

32

56

40

28

44